

## 『裁判例に学ぶ刑法各論 I [個人的法益編]』

## 目次

## 個人的法益編

## 第1章 生命に対する罪

第1	殺人罪（199条）	2
第2	殺人予備罪（201条）	7
第3	嘱託殺人罪（202条後段）	10
	* 刑事訴訟法の論点① 自白の補強法則／13	
第4	承諾殺人罪（202条後段）	14
第5	自殺教唆罪（202条前段）	17
第6	自殺幫助罪（202条前段）	26
第7	業務上墮胎罪（214条前段）	28
第8	業務上墮胎致死罪（214条後段）	31
第9	不同意墮胎罪（215条1項）	33
第10	不同意墮胎致傷罪（216条）	35
第11	保護責任者遺棄罪（218条）	38
第12	保護責任者遺棄致死罪（219条）	41

## 第2章 身体に対する罪

第1	暴行罪（208条）	48
第2	傷害罪（204条）	51
第3	傷害致死罪（205条）	54
第4	同時傷害の特例（207条）	59

第 5	凶器準備集合罪（208条の2第1項）	64
第 6	過失傷害罪（209条）	70
第 7	過失致死罪（210条）	74
第 8	業務上過失致死傷罪（211条前段）	77
第 9	重過失致死傷罪（211条後段）	82

## 第 3 章 自由に対する罪

第 1	脅迫罪（222条1項）	90
第 2	強要罪（223条1項）	94
第 3	逮捕罪（220条前段）	96
第 4	逮捕致死傷罪（221条）	100
	* 刑事訴訟法の論点② 裁判所からの求釈明（訴訟指揮権関連）	105
第 5	監禁罪（220条後段）	106
第 6	監禁致死傷罪（221条）	109
第 7	未成年者拐取罪（224条）	112
第 8	わいせつ目的誘拐罪（225条）	117
第 9	生命身体加害目的略取罪（225条）	120
第10	拐取者の身代金要求罪（225条の2第2項）	123
第11	所在国外移送目的拐取罪（226条）	127
第12	人身売買罪（226条の2）	131
第13	強制わいせつ罪（176条前段）	135
第14	強制わいせつ罪（176条後段）	137
第15	強制性交等罪（177条前段）	140
	* 刑事訴訟法の論点③ 事実の認定	145
第16	強制性交等罪（177条後段）	148
第17	準強制わいせつ罪（178条1項）	149
第18	準強制性交等罪（178条2項）	154
第19	監護者性交等罪（179条2項）	159

* 刑事訴訟法の論点④	被害者証人の保護／165	
* 刑事訴訟法の論点⑤	被害者特定事項の秘匿／166	
* 刑事訴訟法の論点⑥	司法面接／166	
* 刑事訴訟法の論点⑦	誘導尋問／167	
第20	監護者わいせつ罪（179条1項）	168
第21	強制性交等致傷罪（181条2項）	172
第22	強制わいせつ致傷罪（181条1項）	174
第23	準強制性交等致傷罪（181条2項）	176
第24	強制わいせつ致死罪（181条1項）	180
第25	強制性交等致死罪（181条2項）	183
第26	住居侵入罪（130条前段）	185

## 第4章 秘密・名誉に対する罪

第1	秘密漏示罪（134条1項）	194
第2	名誉毀損罪（230条1項）	198
第3	公共の利害に関する場合の特例（230条の2）	202
	* 刑事訴訟法の論点⑧ 挙証責任（証明責任）／214	
	* 刑事訴訟法の論点⑨ 証明の程度／215	
	* 刑事訴訟法の論点⑩ 厳格なる証明／216	
第4	侮辱罪（231条）	216

## 第5章 信用・業務に対する罪

第1	信用毀損罪（233条前段）	222
第2	偽計業務妨害罪（233条後段）	225
第3	威力業務妨害罪（234条・233条）	230
第4	電子計算機損壊等業務妨害罪（234条の2第1項）	236

## 第6章 財産に対する罪

第1	窃盗罪（235条）	242
第2	不動産侵奪罪（235条の2）	246
第3	強盗罪（236条1項）	250
第4	利益強盗罪（236条2項）	254
第5	強盗予備罪（237条）	257
第6	事後強盗罪（238条）	259
第7	事後強盗未遂罪（243条）	262
第8	昏睡強盗罪（239条）	264
第9	強盗致傷罪（240条前段）	268
第10	強盗傷人罪（240条前段）	271
第11	強盗致死罪（240条後段）	273
第12	強盗殺人罪（240条後段）・死体遺棄罪（190条）	277
第13	強盗殺人未遂罪（243条）	281
第14	強盗・強制性交等罪（241条1項・2項）	284
第15	強盗・強制性交等殺人罪（241条3項）	287
第16	他人の占有する自己の財物と窃盗罪（242条）	289
第17	1項詐欺罪（246条1項）	291
第18	2項詐欺罪（246条2項）	295
第19	準詐欺罪（248条）	299
第20	電子計算機使用詐欺罪（246条の2）	302
第21	詐欺罪と親族相盗例（244条）	307
第22	1項恐喝罪（249条1項）	311
	＊刑事訴訟法の論点⑩ 公訴権の濫用／317	
第23	2項恐喝罪（249条2項）	318
第24	横領罪（252条1項）	322
第25	業務上横領罪（253条）	326
第26	占有離脱物横領罪（254条）	330

第27	横領罪と親族相盗例（244条）	333
第28	背任罪（247条）	335
第29	背任未遂罪（250条）	341
第30	盗品等運搬罪（256条2項）	346
第31	盗品等有償譲受罪（256条2項）	348
第32	盗品等有償処分あつせん罪（256条2項）	350
第33	公用文書毀棄罪（258条）	353
第34	私用文書毀棄罪（259条）	356
第35	建造物損壊罪（260条前段）	358
第36	建造物損壊致傷罪（260条後段）	361
第37	器物損壊罪（261条）	363
	＊刑事訴訟法の論点⑫ 訴訟条件／365	
第38	自己の物の損壊等罪（262条）	365
第39	境界毀損罪（262条の2）	369

・判例索引／372

・著者紹介／377

『裁判例に学ぶ刑法各論Ⅱ [社会的法益・国家的法益編]』

◎社会的法益

第1章 公共の安全に対する罪

第2章 取引の安全に対する罪

第3章 風俗に対する罪

◎国家的法益

第4章 国家の存立・国交に関する罪

第5章 逃走・犯人蔵匿・証拠隠滅の罪

第6章 偽証・虚偽告訴の罪

第7章 職権濫用の罪

第8章 賄賂の罪